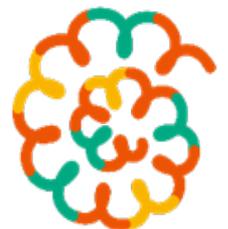


若者の孤独・孤立対策について

令和8年3月5日
内閣府 孤独・孤立対策推進室



孤独・孤立^{対策}
官民連携プラットフォーム

有識者会議の議題について(予定)

●第6回 有識者会議 3/5(木)10:00~12:00

議題:若者の孤独・孤立の予防に向けた取組について

※地方公共団体、教育機関、NPOからヒアリング、その後意見交換を行う予定

●第7回 有識者会議 3月中(予定)

議題:地域における取組基盤の整備と担い手づくりについて

※地方公共団体からヒアリング、その後意見交換を行う予定

●第8回 有識者会議 4月中(予定)

議題:①つながりを生むための分野横断的な連携促進について(医療分野等との連携の在り方について)

②これまでの議論の整理

※議題①では、地方公共団体、医療機関等からヒアリング、その後意見交換を行う予定

※議題②では、第5回～第8回までの議論の整理を行う予定

●第9回以降の有識者会議 ※5月以降(予定)

第9回以降は、第8回での議論の整理を踏まえた論点や、第8回までに扱い切れなかった論点について、引き続き深掘りを行い、有識者会議における議論を契機に施策間連携を促していく。

議題例:○つながりを生むための分野横断的な連携促進の在り方について

・金融分野との連携 ・教育分野との連携 ・まちづくりとの連携 ・農業分野との連携 等

○EBPM、政策評価の在り方について

○海外との連携・国際的理解の増進について

○団塊ジュニア世代を含めた単身者の孤独・孤立対策について

○こどもの孤独・孤立の予防に向けた取組について

など

「若者の孤独・孤立」に関する現状等

●若者の孤独感

- ✓ 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、20～29歳(7.4%)が最も高く、次いで30～39歳(6.0%)となっており、若年層の方が孤独感が比較的高くなっている。
- ✓ 調査開始(令和3年)以来、この傾向は変わっていない。

(参考2:孤独・孤立の実態把握に関する全国調査結果(令和6年))

(%)	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
令和6年	3.3	7.4	6.0	4.3	5.1	4.4	2.5	2.8
令和5年	5.8	7.1	6.9	6.5	5.7	3.4	2.7	2.8
令和4年	5.2	7.1	7.2	5.9	6.2	3.9	2.7	2.3
令和3年	3.4	7.7	7.9	5.6	4.9	3.3	1.8	3.0

●現下の社会情勢

- ✓ 小中高生の自殺者数は過去最多水準で推移している。また、10歳代及び20歳代の自殺者数は令和2年に増加し、高止まり傾向にある。(自殺対策白書(令和7年版))
- ✓ 29歳までの大学生等の自殺の原因として、男女とも「孤独感」が10位以内に入る。(自殺対策白書(令和7年版))
- ✓ 令和5年度における児童相談所の児童虐待相談対応件数は、22万5,509件と依然として多い。(こども白書(令和7年版))

●孤独・孤立対策に関する認知度

- ✓ 若年層は孤独感が他世代よりも高くなっているが、政府の対策についての認知度は低い現状にある。
※ 政府の「孤独」や「孤立」に関する総合的な対策について「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した割合は「18歳～29歳」で7.6%、「30歳～39歳」で9.8% (令和7年実施「孤独・孤立対策に関する世論調査(確報)」)

⇒ 学生や社会人、要支援若年層も含めた若者(特に20～30代)の、孤独・孤立の予防に関する取組についてヒアリングを行い、幅広く御議論をいただく。

⇒ 上記について議論する中で、分野横断的な施策間連携の可能性を探る。

<参考1>若者の孤独・孤立対策に関するこれまでの議論等

【孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画（R6.6.11（R7.5.27一部改定））（抄）】

令和6年の自殺者数について、50歳代が最も多い一方で、小中高生の自殺者数が過去最多となり、特に女子中高生の自殺者数が増加していること、10歳代の女性は他の年齢層と比べても高い増加率となっている事実等を重く受け止める必要がある。自殺対策基本法に規定されているとおり、こども・若者の自殺を含めた自殺の問題は、社会全体の問題であるという認識の下、関係府省庁が連携して対策を講じているところであるが、児童館やフリースペース、こども食堂といった家庭でも学校でもない多様な居場所づくりや、そうした居場所を通じて、こども・若者の悩みを地域で受け止め、伴走支援を行う体制の構築などの、地方公共団体やNPO等の取組への支援等を通じた取組や、地域で教育や福祉等に携わる方の「顔の見える関係」づくりなど、こども・若者の孤独・孤立状態の予防に向けた取組を推進する。

【「孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画」に関する有識者意見（R7.5）（抄）】

関係府省庁が連携の下、こどもの孤独・孤立状態を予防していくことが重要である。また、不登校を契機とした退学などにより、教育機関とのつながりが途切れてしまったこどもや、学校を卒業した段階の若者に対しての居場所づくりなど、地域全体で支援に取り組むことも重要である。

【第5回孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議（R8.1）における主な御意見（若者関係のみ）】

- ・大学キャンパスの中で対応することの必要性と有効性を実感。問題が深刻化する前に早期に発見し、学生同士の支え合いが進む一方、経費や学内連携（支援窓口とのつながり）が課題となっている。
- ・地域における取組基盤の整備と担い手づくりについて強化が必要。こども・若者の居場所は増加したが、居場所の周知、スティグマ無く利用できるよう学校と連携しつつ進めていただきたい。また、こども食堂の運営者負担の軽減のため、居場所の設置と運営に関する課題整理等、検討が必要。

【第221回国会における高市内閣総理大臣施政方針演説（R8.2）（抄）】

7 人材力

（1）教育・人材育成・若者支援

そして、全ての子供・若者が、豊かな体験を得られるよう、支援を強化します。特に、孤独・孤立に陥りやすい若者について、大規模な実態調査を行った上で、社会とのつながりの構築を支援します。

<参考2> 孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(令和6年)

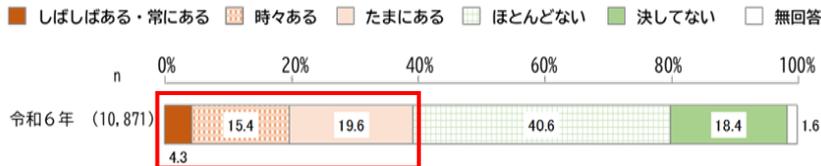
調査目的

我が国における孤独・孤立の実態を把握し、各府省の関連行政諸施策の基礎資料とするため、令和3年度から調査を開始。令和6年度で4回目の実施。

調査結果

【孤独の状況】

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.3%、「時々ある」15.4%、「たまにある」が19.6%
→合計約4割が「孤独感がある」と回答。



- 孤独感を年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、20歳代及び30歳代で高い。



- 孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人(孤独感が比較的高い人)について、現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事を回答割合の高い順にみると、①「家族との死別」(24.6%)②「一人暮らし」(18.8%)、③「転校・転職・離職・退職(失業を除く)」(14.7%)となっている。

調査概要

- ・調査対象: 全国の満16歳以上の個人2万人
※有効回答数:10,876件(有効回答率54.4%)
- ・調査方法:内閣府から調査対象者あてに調査書類を郵送。
調査対象者はオンライン又は郵送により回答
- ・調査事項:孤独・孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等(全33問)

【孤立の状況】

- ①家族・友人等とのコミュニケーション頻度

- 同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが「全くない」と答えた人の割合は9.3%



- ②社会活動への参加状況

- 「特に参加はしていない」と答えた人の割合が50.6%で、いずれかの活動に参加している人の割合は46.6%



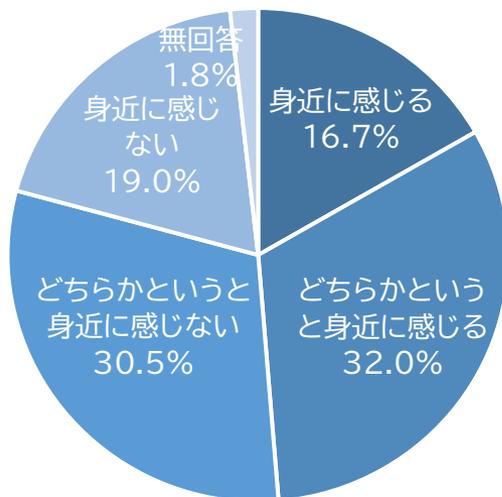
<参考3> 孤独・孤立対策に関する世論調査(確報)

- ✓ 現状の「孤独」や「孤立」に対する意識や孤独・孤立対策の認知度等について現状を把握することを目的に、内閣府政府広報室の世論調査の枠組を活用し、全国18歳以上の日本国籍を有する者3,000人に調査を実施※。

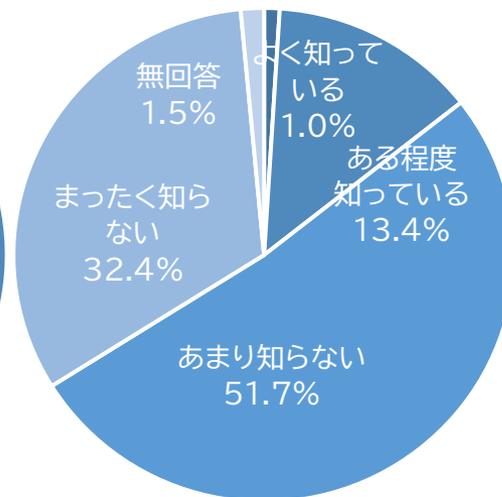
※有効回収数1,732人(有効回収率57.7%)。

- ✓ 孤独・孤立を身近に感じている方が半数近くを占める一方で、政府の孤独・孤立対策を「あまり知らない」と回答した方が最も多かった(52%)ことなども踏まえ、孤独・孤立対策の認知度向上を図る必要。

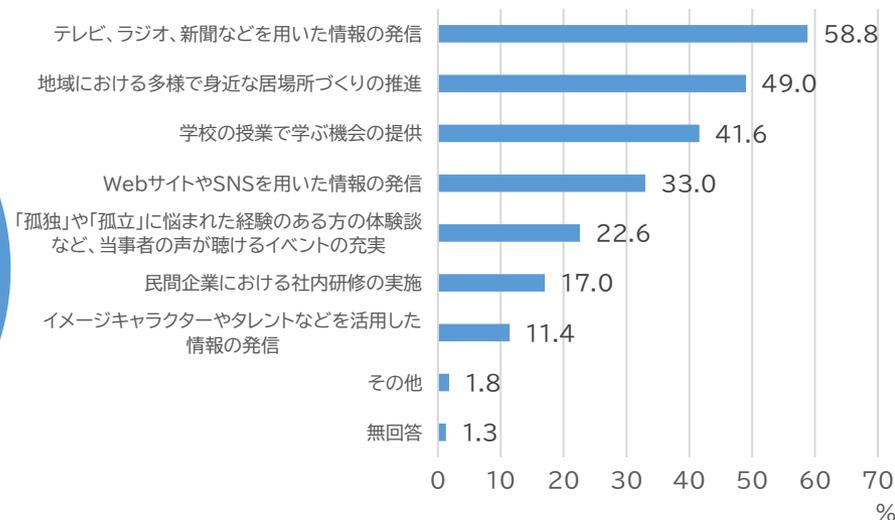
問 「孤独」や「孤立」について、あなたにとって身近に感じますか。



問 あなたは政府が、「孤独」や「孤立」に関する総合的な対策を推進していることを知っていますか。



問 あなたは、今後、より多くの方が「孤独」や「孤立」について関心を持つためには、どのような取組が効果的だと思いますか。(複数回答可)



⇒「速報版」(令和7年12月公表)の調査結果から大きな変化は見られない。

<参考4> 孤独・孤立対策に関する世論調査(確報) 世代別対策認知度

- ✓ 政府の「孤独」や「孤立」に関する総合的な対策について「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した割合を世代別に見ると、「40歳～49歳」が最も低い。
- ✓ 若年層の「18歳～29歳」、「30～39歳」については、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」といったシニア世代と比べて、低くなっている現状。

問 あなたは政府が、「孤独」や「孤立」に関する総合的な対策を推進していることを知っていますか。

